

千年湖

2005(平成17)年8月14日鑑賞(ユウラク座)

★★★★



監督=イ・グァンフン/出演=チョン・ジュノ/キム・ヒョジン/キム・ヘリ/チェ・ウォンソク/イ・ハンガル/カン・シニル/チャン・ヒョソン/パク・トンビン (彩プロ配給/2003年韓国映画/92分)

……『武士 (MUSA)』(01年)と並ぶ、韓国映画には珍しい、壮大な時代物絵巻。霊に取り憑かれた少女がワイヤーアクションに挑戦する姿には多少違和感もあるが、千年湖の美しさと新羅の王宮の壮大さにはビックリ！ また、女王に慕われながらも、身分卑しい娘との結婚を選ぶ主人公とこの健気な娘との韓流純愛ドラマもステキ！ 『キネマ旬報』8月下旬号での評価は低いが、私はこんな映画大好き！ 日韓関係厳しき中、この映画から新羅の国とその歴史を学び、日韓の映画談義と歴史談義が弾めば、たちまち日韓交流が進展するのでは……？ さらに次々と韓流時代劇が製作されることを期待したいものだ。

邪馬台国論争と新羅建国神話

映画の冒頭は、紀元前57年という時代。日本では昔から「邪馬台国論争」がさかんだが、倭国の王として卑弥呼が承認されたという有名なお話は239年のこと。したがって、紀元前57年当時の日本の姿なんて誰も知らないのが当然。

ところが日本のお隣にある朝鮮半島の国、新羅しらぎはなんと、紀元前57年に「始祖」が王位につくことによって建国されたという建国神話があるとのこと。これは、私がこの映画を観た後、インターネットで調べたことによって得た知識だが、紀元前57年に新羅の始祖が王位(当時の言葉では居西干)についたが、新羅王の建国伝説は卵生神話であり、始祖は卵から生まれたとなっているとのこと。ホンマかいな……？

導入部にびっくり！

冒頭スクリーン上には、この紀元前57年に起こった悲しい史実(?)が描かれる。その史実とは、呪術の時代を生きていたアウタ族が神聖なる儀式をくり広げている最中、いきなり新羅の始祖朴赫居世(チャン・ヒョソン)によって攻め込まれ、アウタ族が無惨な全滅を遂げること。アメリカの西部劇映画でよく描かれるインディアン^{ヒョクコセ}の皆殺しと同じような大惨劇だが、この映画の趣向は、ここで朴赫居世^{ヒョクコセ}が神剣を大地に突き刺すことによって、アウタ族の怨念を封じ込めるといふロマンあふれるストーリーを創り出したこと。こりゃ何となく面白そう……。

新羅という国は……？

紀元前57年に新羅が建国されたというのは神話の話で、歴史上の新羅の建国は356年の第17代奈勿王の即位からとされているテキストが多いとのこと……。

それはともかく、せつかく建国された統一新羅の国も、それから1000年後、つまり9～10世紀になると内部の勢力争いや官僚制度の腐敗などから、次第に滅亡寸前になっていった。そんな反乱相次ぐ新羅の国の女王が真聖^{ジンソン}(キム・ヘリ)だ。

この映画のこんな設定もエライことに概ね史実と一致している。すなわち私が、インターネットから得た知識によれば、新羅の歴史は①成長期の上代(654年まで)、②充実期中代(780年まで)、③衰退期の下代(935年の滅亡まで)に分類されるが、この映画に登場する真聖女王^{ジンソン}は新羅の第51代の王としてインターネットでも検索することができる実在の人物。

彼女の後、第56代の敬順王の時代の935年に新羅は滅亡することになるのだから、真聖^{ジンソン}が統治したのは9世紀のこと。そして紀元前57年から1000年後と言えば943年になるから、『千年湖』はちょっとサバを読みすぎたもの。しかし、そんな細かいチェックはやボというものか……？

『武士(MUSA)』と並ぶ迫力ある戦闘シーン！

この映画の主人公ビハラン(チョン・ジュノ)は反乱軍鎮圧の数々の武勲によって真聖女王^{ジンソン}からの信頼厚い新羅の将軍。もっとも真聖^{ジンソン}の信頼はそれとは別に

「男女の愛」があったから、その後ちょっと話がややこしくなってくるが……？

ビハランとその副官タリ（イ・ハンガル）が反乱軍相手にくり広げる戦闘シーンは、あの『武士（MUSA）』（01年）と同様に肉弾相討つもので、迫力満点！
もっとも『キネマ旬報』8月下旬号における稲垣都々世氏の採点は、最低ランクの星1つであるうえ、「韓国映画にありがちな、どぎつくてうるさい歴史活劇」「優雅さも品もなく、こけおどしの音響に乗せてエロ・グロたっぷりの残虐さを見せつける」とボロクソ……。しかし、張藝謀監督の『HERO（英雄）』（02年）をはじめとして、戦闘シーンでのワイヤーアクション全盛の今、私は、こんな韓流の肉弾相討つ戦闘シーン（？）が大好き！

モテモテのビハランだが……？

ジンソン
真聖女王のために新羅国の将軍として勇猛果敢に戦い、大きな成果を挙げているビハラン将軍は当然新羅国のホープで、みんなからモテモテ。現在の自民党における安倍晋三副幹事長のようなもの……。ところが女王は彼を職務上重用しただけではなく、男女の愛の感情をもっていたうえこれを家臣たちに示したのは、ちょっと（大変な？）問題。これではビハランほどの功績を挙げられない他の側近たちがひがむのは当然。したがってそれらの「不満分子」たちが、その後のこの映画のストーリーの骨格を作り上げていくことに……？

ビハランの純愛の対象は身分卑しき娘……

普通は女王からモーションをかけられたら、ウハウハとそれに乗っていくものだが、このビハランは違う！ ビハランが好きなのは、道士（チェ・ウォンソク）の身分卑しき娘であるジャウンビ（キム・ヒョジン）だった。ストーリー展開の途中、この2人のなれそめが紹介されるので見逃さないように……。このビハランとジャウンビとの純愛ストーリーは、今風の韓流純愛ドラマと同じように美しいものだが、ビハランの政敵たちの悪だくみによって、ジャウンビは窮地に……。反乱軍と戦っていたビハランの頭の中に突然浮かんできたジャウンビの姿を見て、ビハランは急きょ道士の家に引き返したが……？

遂にジャウンビを救うことができなかったビハランが副官のタリに話す、「あ

の娘は、俺に何も求めなかった」というセリフに注目してもらいたい。身分卑しき娘であっても、將軍との結婚は「分不相応」と自ら認めてそれを求めず、その他にも何の要求もしなかったこのジャウンピに対してビハランが惹かれていったのは当然……？ 今どき、こんな「何も求めない娘」なんて日本にいる……？

韓流歴史絵巻にホレボレ……？

『武士 (MUSA)』は、14世紀末、元を万里の長城以北に追いやって、明を建国した朱元璋の娘を守る將軍たちの戦いを描いた歴史絵巻だが、この『千年湖』は9～10世紀の新羅の国の動乱と男女の純愛(?)を描いた韓流歴史絵巻……？

まず第1にその美しさにホレボレするのは、タイトルそのものの「千年湖」。ここは中国浙江省西北部の臨安市にある、天目山の国家自然保護区の中にある湖沼とのこと。鞏俐主演の中国映画『たまゆらの女』(03年)に登場した中国雲南省の昆明にある「仙湖」(もっとも実際は昆明から更に南へ220km下った建水という町にある湖のこと)も美しかったが、そこは現代における長距離恋愛の物語(『シネマルーム5』245頁参照)の舞台。それに対してここは、「江南奇山」と呼ばれる幻想的な雰囲気を漂わせた古代のロマンいっぱい湖。

第2は真聖女王ジンソンが生活している新羅の王宮の壮大さ。これも中国浙江省にあるオリエンタル・ハリウッドと呼ばれる「ホンディエン・ワールド・スタジオ(横店影視城)」内の施設とのこと。パンフレットによれば、このホンディエン・ワールド・スタジオは、1996年『阿片戦争(原題:鴉片戦争)』のロケ地として広州の街を再現、さらに、香港のストリート、明朝・清朝の宮廷、同時代の河畔、秦の王宮、江南の水郷、禪寺など12箇所の景観を加えて規模を拡大。最大の屋内スタジオは1944平方メートルという広さを誇るもので、1つの都市がそこに存在すると言えるほどの広大な撮影所とのこと。陳凱歌監督チェン・カイコーの『始皇帝暗殺』(98年)でこのスタジオが使われてから世界的に注目されたとのことだから、中国映画通の私(?)としても、いつかこのスタジオの見学に行かなければ……。

第3に、多分女性客がホレボレするのは、ヨーロッパ中世の騎士や日本のサムライならぬ、新羅の国の將軍に扮したチョン・ジュノの何ともりりしくカッコいい姿だろう。私は、このチョン・ジュノを、つい最近『アナーキスト』(00年)、

『マイ・ボス マイ・ヒーロー』（01年）の2作品で観たが、それとは全く違う時代劇での姿に男の私でも感動したほどだから、韓流ブームに酔っているおばさんたちにも、彼の武将姿を是非観てもらいたいものだ。

「千年湖」と「千年の恋」そして「千年の古都」

何ゴトも、千^{ミレニアム}年というのは大きな単位。今年2005年の日本は、日露戦争が終結した1905年の「ポーツマス条約」締結から100周年の年だが、千年という単位になると歴史の浅い日本ではあまり目立ったものはない……？ しかし映画でのその代表作は『千年の恋～ひかる源氏物語』（01年）。これは紫式部が執筆をし始めた1001年からの千年を記念したもので、かつ東映創立50周年を記念した作品。

他方、歌では何といっても都はるみの『千年の古都』だろう。これは京都出身の都はるみが、京都の風物詩をいっぱい取り入れた歌詞を、思い入れたっぷりかつスケール感豊かに歌った曲で、大ヒットはしなかったが、私はカラオケでよく歌っていたもの。しかし、この『千年の古都』や谷村新司の『群青』など自己陶酔的に高らかに歌いあげる曲は、おっさんが歌うと若者が最も嫌う曲である『マイウェイ』と同じように、カラオケで歌うのはよほど注意しなければならないもの……？

新羅の国の歴史はちょっと甘くみれば千年ギリギリだが、スクリーンに登場するこの美しい湖をテーマとした恋物語（？）には、やはり『千年湖』というタイトルがピッタリ……？

ワイヤークションもこの程度なら……？

この映画の後半は雰囲気ガラリと変わり、アウト族の霊に取り憑かれたジャウンビの瞳がキラリと光ると、突然空中を舞い始める。そこから展開される新たなストーリーは観てのお楽しみに……？

この悲恋物語（？）のスクリーンへの描き方については当然賛否両論あるだろうが、紀元前57年から千年の時空をかけた恋物語なのだから、この程度のワイヤークションはいいのでは……？

2005(平成17)年8月16日記